

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 2月22日

事業所名 カノン (社会福祉法人 一羊会)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動の目的によってスペースを分け、利用者ごとのニーズに合わせて部屋を分けるなどの対応をしています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		配置基準上必要なスタッフ数を満たしたうえで、基本的にグループを2つに分けてより個別的な支援が実施できるような体制をとっています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		事業所は2Fフロアにありますが、エレベーターがあります。フロア内はバリアフリーです。お子さんに合わせて環境を整えられるよう、可動式のパーテーションを使い部屋を区切ったり広く使うなど物理的な構造化にも配慮しています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		常勤、非常勤が参加する職員会議・支援会議を定期的実施しています。アルバイトさんにも参加してもらい会議も不定期に実施し、情報の共有や専門性の向上に努めています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		概ね年1回実施、その評価を元に改善点を検討する機会を職員会議内に設けています。	事業所独自の、ご利用の方の意向や希望を伺う仕組みは現在ありません。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人ホームページで公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第3者評価機構による評価は受けていません。市内の児童通所施設が加盟する任意団体の事業として、例年、市内他機関の相互評価を実施しています。外部監事による事業監査を年1回受けています。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人として整備している研修システムに沿って、職員階層ごとの研修を実施しています。 職員の関心が高い内容、事業所として指定する外部研修(オンライン受講を含む)や見学を実施しています。主に障害特性の理解や、支援手法についての研修を多く受講しています。	

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		普段の様子の観察、家族からの聞き取りによるアセスメントに基づき、個別の特性を理解して個別支援計画を作成しています。	フォーマルな評価の導入やアセスメントの仕組み作りは不十分です。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		事業所として採用し実施しているフォーマルな検査は現在ありませんが、相談支援から提供された結果などはアセスメントの参考にし支援を組み立てています。事業所内でのスタッフによる簡易適業検査は今年度、1名実施しました。	フォーマル検査の積極的な導入は検討課題です。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		各グループいずれも複数のスタッフが関わり立案しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		意味なく固定化しないように意識しています。それぞれの個別支援計画に合わせ、スキルの習得や理解のために同じことを繰り返し実施する場合があります。そういった場合は、狙いやポイントは毎回しっかり検討し共有したうえで実施しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		時期というよりはそれぞれのお子さんのその時のコンディションに合わせて課題やプログラムの調整をしています。長期休暇などの長時間だからできることなども取り入れながらプログラムを組み立てています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		それぞれのお子さんの支援計画とその時のニーズや状況に合わせて、個別、集団にとらわれすぎず、必要な形態を検討し、プログラムを組み立てています。	コロナ禍になり、集団的な活動は極力取り組まないようにしています。対人的な活動はお子さん同士は極力避け、対スタッフと取り組むようにしています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎回の療育前に打合せ、利用者の理解に合わせて専用のグッズを利用者ごとに作成するなど準備しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎回の療育後には振り返りを欠かさず行っています(送迎スタッフ以外で)。気づいた点を共有し、次回の療育にその気づきを反映させることを意識しています(毎日モニタリングする意識です)。	送迎業務とコロナ禍における消毒・清掃作業のボリュームが増え、打合せの時間が減少していること、全員が参加できないことが課題です。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎回、全体的な様子や特記、個別支援計画に記載している項目を元に記録し、毎日が計画のモニタリングであると意識して記録しています。		

18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回以上のモニタリングを実施しています。かかわるスタッフが参加する打合せで複数の意見をまとめ、客観的な評価であるよう努めています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○		ガイドラインを踏まえて支援計画書を作成して保護者へ説明し、同意を得て実施しています。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		主に児童発達支援管理責任者もしくは、事業所内でのそのお子さんの担当スタッフが参加しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		そうあるよう努めてはおりますが、十分ではないと感じています。そのお子さんの情報や目標について学校や、利用されている他事業所などと、今以上に共有していけることが今後の目標です。	サービス等利用会議以外に、学校等の定期的もしくは決まったつながりが無いことが課題です。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアを提供できる体制がない為、また、事業所の方針で医療的ケア児を対象としていないため、利用をお受けしていません。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		該当するようなお子さんのご利用はありませんでした。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		ご家族からのご要望に応じて情報提供書を作成したり、必要に応じて情報提供や移行後実際に訪問するなどしています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		市内の児童通所事業所連絡会において、「スキルアップの会」「事例検討会」や定例会に参加し知識を得たり、助言を受ける機会を得ています。	設問のようなコンサルテーションなどをより積極的に受けていくことを検討しています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		年度ごとのこの自己評価の機会などに保護者の方に必要性を伺っていますが、ご希望がないこともあり実施していません。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		同法人より自立支援協議会子ども部会等に職員が複数参加しています。	
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用ごとに、送迎時にお伝えすることと連絡帳に記載し様子を丁寧にお伝えするよう心がけています。それ以外ではモニタリング面談や、必要に応じて電話相談などで共通理解をもちフォローしていけるよう心がけています。	左記のように努力はしているものの、十分だとは感じていません。必要に応じてこちらから積極的にお知らせやご相談をしていく姿勢を意識してご家族のフォローをしていけるように考えています。	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	<p>ペアレントトレーニングは実施しておりません。今年度は1度ですが、保護者同士の交流や相談ができる機会を設け、その場に大学講師を招いて助言を受けられる機会を設け好評でした。</p> <p>ご参考として、オンラインで見られる研修のご案内も不定期で差し上げました。お子さんのご利用の様子をお伝えする日常のご報告の中でも、ご家庭で参考にできるように、かかわり方のヒントになるようにというポイントに常に意識をもちながら、お伝えするよう心がけています。</p>	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	<p>契約時、内容変更時に口頭および書面にて説明しています。利用負担については年度の初めに申請している加算の状況などをまとめた書面をお配りしてご説明にかえさせていただきます。</p>	支援内容については、設問29に同じです。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	<p>項目30と同じく、日ごろの困りごとなどがあれば保護者からの相談をお受けして、その内容を分析し、生活の状況を加味して無理のない提案をしています。</p>	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	<p>項目29と同じく、「グループ相談会」の企画・開催が該当すると考えています。</p>	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	<p>事業所として、苦情相談の窓口と第三者委員を置いています。加えて、意見要望を受け付ける仕組みがあります。それらは契約時にご説明を、年度初めには書面にてお伝えしております。</p>	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	<p>法人として 年3～4回発行する機関誌があります。必要な事柄は今年度はメール配信を活用し、タイムリーにお伝えできるようにしました。</p>	事業所としての会報などはありません。必要に応じて検討してまいります。
	35	個人情報に十分注意している	○	<p>法人として個人情報の取り扱いに関する規定を設けています。また、契約時には個人情報保護に関する覚書を交わし、事例検討などで事例を出す場合には別途承諾を書面で得ています。</p>	
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	<p>お子さんの普段の様子を観察、保護者からの聞き取りを踏まえて、意思疎通に関する手立てを検討し、実施と見直しを繰り返しています。</p>		

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○ 現状ではこういったご希望やニーズが把握できておらず、招待する行事の開催はしていません。	コロナ禍でもあり、参加や実施は慎重に考えています。
--	----	------------------------------------	--	---	---------------------------

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		法人にリスクマネジメント部会が設置されており、月1回定例でマニュアルの策定や更新、リスクマネジメントに関する周知を行っています。事業所もそれに従って確認や情報収集を行っています。	保護者への周知は書面を閲覧できるようにしていますが、十分ではないと思います。必要な訓練は実施しましたが、その実施のご利用の方への周知も十分ではないため、お伝えの仕方を検討していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	同じ建物内の成人事業所と連携して、年度で2度避難訓練を行いました。	今後も建物内で連携しながら、お子さんが参加する避難訓練や、種々の災害や条件(夜間や外出中など)も想定し対応できるような訓練の実施を検討しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人で設置している権利擁護部会において、虐待防止や権利擁護に関する学習を進め、事例集の作成や職員の行動規範を定めて自己評価を年2回行い、その結果に応じて施設内で討議する機会を設けています。法人主催の権利擁護関係の研修にも2度参加しました(虐待防止、意思決定支援)。	継続的に実施していくことの必要なものと捉え、次年度以降も必要な対応をまいります。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	項目40と同じく、権利擁護部会を設けて継続的に議論しています。身体拘束の概念は理解していますが、現在、身体拘束を伴う方の利用がありません。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	現在、該当するお子さんの利用がありませんが、必要な場合はそのように対応いたします。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		法人で設置するリスクマネジメント部会において、事故報告やヒヤリハット報告を集計し、傾向を分析の上対策を講じています。日常的には朝礼で周知し、タイムリーに対応方法を共有できるようにしています。		